

会 議 録

<会議名称> 令和8年度 第1回岸和田市小中一貫教育推進会議

<開催日> 令和8年7月8日（水）

<時 間> 16時～17時00分

<場 所> 岸和田市教育センター 1階 視聴覚研修室

<出席者> ○出席、■欠席

（学校関係者）

山崎校長	木實校長	森田教頭	井上教頭	何森教諭	池田教諭	安田教諭	清水首席
○	○	○	○	○	○	○	○

（教育委員会事務局）

倉垣学校教育部長 （委員長）	石井学校教育課長 （副委員長）	松本人権教育課長	山本指導主事
○	○	○	○

<議題等>

1. 教育委員会挨拶
2. 報告
3. 意見交換等
4. その他

<当日配布資料>

- ・ 岸和田市小中一貫教育基本方針
- ・ 第1回推進会議 会議録
- ・ 令和8年度各校区小中一貫教育推進計画

1. 教育委員会挨拶

【倉垣委員長】

失礼します。改めまして皆さんこんにちは。

本日が7月8日ということで、あと10日ほどで1学期の終業式です。学期末なので先生方も大変お忙しい中であると思います。そのような中、本日の小中一貫教育推進会議にご参集いただきまして本当にありがとうございます。

岸和田市小中一貫教育基本方針というのは令和2年10月に策定をされて、6年目を迎えます。小中一貫教育推進会議は令和3年度から行われています。この間に岸和田市の状況も方向性も大きく変わってきました。コロナウイルス感染症の影響を受けて岸和田市小中一貫教育基本方針が策定された頃と比べて、現在の状況はいろいろと変わってきている部分があると思います。そういった部分も含め、小中学校の状況や、地域の状況、学校の様子を踏まえ、小中一貫教育のあり方というものを検討して、ご意見をちょうだいするのがこの会議の主な趣旨と考えていますので、いろいろと教えていただいたり、ご意見をいただいたり、ご提案をいただいたりすることで議論が活発になればよいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それから、昨年度の小中一貫教育推進会議において、取組まれている現状について詳しく知るために小中一貫教育担当者の方々を招き、岸和田市小中一貫教育基本方針の中身についてのご意見をいただいたと聞いております。引き続き、本日は、お二人の小中一貫教育担当者の方に来ていただいております。

今回の小中一貫教育推進会議では、委員の方の入れ替わりがございますので、各中学校の取組み進捗状況やより積極的に取組まれている中学校区からの、情報提供についてお話いただけたと考えております。意見交換していく中で、岸和田市の子どもたちにとって何が必要なのかを考えていきたいと思っております。小中の連携・一貫教育の推進が必要であることは間違いのないというのは、どなたのご意見も一緒であると思います。それをいかにスムーズに、より適切に実施できるかというところが一番の懸案になると思っておりますので、活発なご協議をいただけたらと思います。限られた時間ですけれども、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

2. 委員自己紹介

3. 説明

【倉垣委員長】

それでは次第の3つ目、「説明」です。事務局のほうからお願いします。

【山本】

＜小中一貫教育推進会議の目的・組織・役割等＞

＜各中学校区の取組状況＞

の説明

【倉垣委員長】

今、各中学校の取組状況ということで、事務局から報告説明がありましたが、この点に関して、各委員のみなさんから何かご質問やご意見、もう少し詳しく知りたい等、何かございましたらお願いいたします。ございませんでしょうか。

— 意見なし —

後ほどご意見をお伺いする場面もございますので 4 番目の意見交換というところで、それぞれ委員の方の中学校区の取り組み状況につきまして、ご報告をいただける方から聞いていきたいと思います。また今回は、小中一貫教育をご担当されている 2 人の先生にも来ていただいております。小中一貫教育の中心にかかわられている中で、取組まれている内容や課題、子どもたちの様子などのお話をいただけたらと思います。まず清水先生からお願いします。

【清水首席】

葛城中学校区の取り組みについて報告させていただきます。

私自身、担当になって 3 年目ということで、3 年間手探りで行っていました。着実に進んでいる部分を報告させていただきます。

1 年目の令和 6 年度に関しては、小学校と中学校の先生たちが、まず、お互いに顔見知りになって、しっかり意見を交換できる関係づくりから始めていきました。その上で、夏季合同研修で校区内の課題を共有しました。あとは、中学校から小学校 6 年生の授業の訪問に行く。中学校の支援学級に小学校の児童を招待し、見学してもらう。体験入学という形で中学校を体験してもらう。これらを柱に活動を行っていきました。

2 年目の令和 7 年度に関しては、小学校と中学校で一貫した取組みを考えたいと思い、認知力と非認知力の 2 つの面からアプローチした活動を考えていきました。認知力の面では、チェックテストのようなものを実施して、児童たちのつまずきを確認し、ドリル学習を行って、補充学習をしていくことによって、つまずきを克服した形で、小学校から中学校へ進学できるような形を考えていきました。非認知力の面では、中学校でハイパー Q U を実施しているので、それを小学校でも実施してみたらどうかと考え、ハイパー Q U の研修を行いました。ただ、2 年目に感じたことは、小学校の先生と中学校の先生で、課題意識や、様々な面での違いという部分も感じたので、この認知力と非認知力の取組みが実現するまではいきませんでした。2 年間の活動を振り返った上で、葛城中学校区で一番効果が出ていたのは、小学校に、私たち中学校の教員が行くとか、中学校に小学生が来てもらう中で繋がりが生まれたことです。実際に生徒指導面や支援面で課題を抱えている生徒が、中学校に入学してきた段階で教師の名前やクラブ顧問の先生の名前を覚えていてスムーズに中学校生活に入っていけました。そこが良い部分だなと感じたので、繋がりとこの部分を意識して、令和 8 年度は活動していこうと話をしています。その中で、教師と小学校の児童をつなげるだけじゃなくて、小学校の児童同士をつなげる活動も大切だという話が出ました。現在話を進めているのは、まず葛城中学校の生徒会執行部が小学校に訪問する。その中で、中学校で実施しているスリンプルプログラムを小学校の児童にも体験してもらう。入学説明会で、実際に小学生が中学校に来たときに、交流を行うような形で、入学前に、交流できる機会を設けよ

うと考えています。あとは中学校の行事である葛城カーニバルといって、9月に有志発表によるミニ文化祭を行うのですが、小学校6年生の児童を招待しようと進めています。この取り組みに向けて、夏季合同研修でどのような取り組みを行えたら、生徒同士・児童同士が交流できるかを具体的に考えているところです。

児童同士をつなげていく、教師も繋がる。その繋がりが小学校から中学校に入る段階で役に立つのではないかと、活動を進めているところです。以上です。

【倉垣委員長】

ありがとうございます。ご意見やご質問は後程まとめて行いたいと思います。続いて、安田先生お願いします。

【安田教諭】

小中一貫教育の取り組みですが、コロナ禍に中断という形になっていました。もう一度、小中一貫教育の取り組みを掘り起こしていこうということで、去年度に合同研修や相互授業参観が復活したという状態です。課題で感じているのは、中学校区が、山直南小学校と山滝小学校、東葛城小学校3校の小学校の児童が山滝中学校に集まるのですが、東葛城小学校の児童は葛城中学校と山滝中学校、山直南小学校の児童は山滝中学校と山直中学校というように3つの中学校が絡むことになっているので、一貫していこうと言っても、どこかでひずみが出てしまうので難しいなと担当者で言っていました。

また担当者で話し合ったときに、こんな取り組みはどうかと、各校それぞれの取り組みについて話をするけども、それぞれの学校独自に取り組んでいることがあるのと、中学校区をまたいでいるので、すり合わせが難しいという課題がありました。3校で話し合った結果、自分たちの取り組んでいるものを次に繋がるように価値づけていこうと考えました。このように繋がると先生方に意識してもらおう。新たに何かを統一して行うのではなくて、価値づけていこうと取り組むことになりました。

新しい取り組みするにしても、自分の校務分掌を越えるような、例えば、時程に関わることや、朝学についても学力向上担当の先生と相談する必要があるなど、小中一貫教育担当だけでは決めきれない部分が出てきました。そのような意識を先生方にもってもらうために、去年度の合同研修は分掌ごとに集まって、交流しました。つながることで、小中一貫教育を意識できるように3校合同の研修を行いました。それぞれが振り返り、参考になったことを、フィードバックしていけば、少しずつであるが、小中一貫教育に繋がっていくと考えています。

今年度は、教科ごとに合同研修を行う予定です。例えばノート指導についてや、タブレットの授業での使い方、AIドリルの活用、「振り返り」と「まとめ」について、授業で学ぶ「用語」についてなど小中学校で一貫して取組めることをねらいとしています。

中学校に上がったときに3校が集まり、人数差もたくさんあるので、それぞれの小学校で行っていることが似通っていけたらということをめざし、行っているところです。まだ2年目なので、大きな変容はないのですが、これから少しずつ、子どもたちが良いように変わっていくのが見れたらなと考えています。以上です。

【倉垣委員長】

ありがとうございます。

小中一貫教育担当者を代表して中学校、小学校で来ていただき、取り組みについて、ご説明をいただいたところです。続いて委員さんの校区の取り組みについて、順番に、ご意見いただけたらと思いますので、井上先生からお願いします。

【井上委員】

はい。光陽中学校校区ですが、東光小学校と大宮小学校の2校から、光陽中学校に進学するので、特に東光小学校の約半分ぐらいが岸城中学校に分かれて進学します。今年の入学生も、東光小学校から約40人、大宮小学校から約100人の140人ぐらいです。一緒になってやりましょうとしたときに、東光小学校は岸城中学校と、光陽中学校と2中学校区分となり、負担が大きくなるということもあります。大宮小学校も、分かれて進学します。

今年度は特に生徒指導担当者が毎月、光陽中学校、大宮小学校、東光小学校というようにそれぞれ情報交流の場をもって、情報共有を行うなど密になるように、進めているところです。人権教育についても、そのような形でできるように準備を進めています。

林間学校などの宿泊学習で、海洋センターに小学校が行くようになったことなどもあるので情報共有をしっかりとするようにしました。人権教育については、どのような取り組みをしているのか担当で改めて整理しようとしています。支援学級で先日も大宮小学校、東光小学校の児童が、光陽中学校へ見学に来て、交流しました。また、生徒会では入学説明会が1月ぐらいにあるので、6年生の児童が来たときに学校紹介やクラブ紹介など取り組みを考えています。着実にできることを進めている状況です。以上です。

【森田委員】

山直中学校区の小中一貫教育の取り組みを紹介します。まず山直中学校区に関しましては、例年、8月6日に小中学校の合同研修を、山直北小学校、城東小学校、山直中学校の3校で行っているところです。本年度から、各校で当番校を持ち回りにしまして、今年度は、山直北小学校で生徒指導担当が、事例検討中心の内容で実施する予定です。そして、各校の校内研修についてですが、本校は7月21日に特別支援や、緊急対応についての研修を行いますが、メール等、いろいろなところで、城東小学校、山直中学校にも研修に来ませんか、相互に案内をして、交流しているところです。相互の開催する研修に、行かせていただいたり、来ていただいたりという交流があります。それから、小学校6年生と中学校3年生の引き継ぎについては、他の中学校区と同じように行っているけれど、2月の後半から3月にかけて、山直中学校の教員が、出前授業という形で、来ていただいています。昨年度は3クラスとも英語で来ていただきました。子どもたちはすごく楽しく、英語の授業に取り組んでいて、良いなと思いました。それから、山直中学校のテスト週間に合わせて、小学校も勉強していく独自の取り組みがあり、これを「すす勉ウィーク」という形でやっています。山直中学校のテスト期間中は、小学校でも自主学習とか、家庭学習に力を入れていく週間として取り組んでいます。今年度はミライシードも導入されたので、A Iドリルも含めて、取り組んでいきたいと話していました。最後になりますが施設の代表者と、小・中学校の管理職、生徒指導担当者などを含めまして、情報共有を行う会議を毎年行っております。今後は施

設見学も行っていく予定です。以上です。

【山崎委員】

光陽中学校区の報告は井上先生に言っていただきました。3月までは浜小学校だったので岸城中学校区について報告します。7部会に分かれて、それぞれの部会で話を進めるということをしておりました。学力向上、SST、生徒指導、生徒会児童会、特別支援教育、人権教育、道徳教育それぞれでねらいを確認し、具体的なアプローチについて統一していこうとしています。小規模の学校では、同じ教員が様々な分掌を兼任していることがあったので、今年度は分散できるように人事的な工夫をしました。あとは研修会を合同で行い、SSTや朝読書を統一して行うようにしました。同じ中学校区で方向性を同じにして学習できるよう話し合ってきたところです。光陽中学校の取組みについては、協力しながら取組んでいこうと思います。以上です。

【木實委員】

久米田中学校区も、コロナ禍で中断していたことが3年前に再開しました。一番は幼小中の合同研修会を8月1日基準に、今年は土曜日なので、7月30日に開催し、小中学校の教員がお互い顔が見える交流にしようとしています。それぞれの学校が抱えていること、重点を置かないといけないことに対してテーマを設定し、みんなで学ぶようにしています。3年前は人権と特別支援教育について、昨年度は個別最適な学びとタブレットの活用について、今年は、元文部科学省の調査官の方を呼んで、これからの子どもたちに必要な学びは何なのか、合同研修会で交流して、全員でそのめざす子どもの姿を共有しようと思っております。部会ごとの交流もやっていて、生徒指導は月1回集まり、それぞれの学校の様子を紹介したりしています。人権教育では、課題について一番大事なところを含めた合同研修を年1回開催しています。教科、学力向上について英語科や社会科で出前授業をしています。あと性教育プログラムなど、中学校で実施することになったら小学校の先生にも来てもらっています。小中学校が共通でこれでやろうと固定するよりも、最大公約数的な話題、トピックで、同じ方向、こういうのをみんなで大事にしていこうというような感じで、縛りなどないようにしています。以上です。

【何森委員】

まずは色々な方に伺って、以前からの小中連携の成果を引き継いで、大きな負担なく小中一貫教育にいかしていこうって話が出ていましたので、そういう形になっているということで安心しています。土生中学校区では、夏の研修は太田小学校が今年度担当になっています。今回は元校長先生に来ていただいて、今の学校現場に必要な教育は何なのか講演していただきながら、自身の学びを定めようと、研修会を予定しているのですが、研修以外については、あまりよくわかりません。これまでの会議の中で、大きな負担なく実施していくということについては知らされているのですが、しっかり周知するところ、あんまり進んでないと、少し感じているところです。その周知するという意味では、昨年度の2回目の会議録について、教育委員会のホームページを見ても、第1回しかなかったのが気になっています。今回は18回目の会議ですが、この推進会議は、これまでの意見をいかしながら、次に進めていくというのが、大切なことだと思います。昨年度の最後の会議でも、かなり重要な意見が出てきたと思いますので、そのあたり

がどのように生かせるのかなというところを気にしています。以上です。

【倉垣委員長】

周知とおっしゃるのは、誰が誰に対しての周知でしょうか。

【何森委員】

学校の中で担当者が教員に周知することもあるでしょうし、この会議の会議録を管理職の先生に読んでもらうよう依頼していると以前の学校教育課長もおっしゃっていました。また、教育委員会が作成した小中一貫教育についての動画を、教員に視聴するよう勧めたりしていたと思います。しっかり周知していこうという会議の議論の中の1つであったが、少なくとも、自分は学校で周知されていないと、いつもこの会議で言っているのですが、周知について進んでいるのか気にしています。

【倉垣委員長】

それぞれの団体を代表して参加しているので、それぞれの団体でも周知をしていただくし、事務局としても様々な方法で周知します。何森先生も、池田先生も教職員代表で参加しているので、何らかの形で教職員に周知していただきたいです。

【何森委員】

自分は現場の実態を話すつもりで来ています。自分はこの小中一貫教育について、推進についてはフラットな立場でいながら、ちゃんと周知してくれたか、議題が出てきていないかということについて、この場で意見を伝えると思っています。自分が学校でこの推進会議について何か言ってしまうと、校長先生は会議録を読んでもらっていると思いますが、判断できなくなってしまうかもしれないので、自分はフラットな立場で参加させてもらっています。もちろん、まわってきた仕事について一生懸命しています。

【倉垣委員長】

設置要領における教職員代表という位置付けがどういうものなのかというところに関わってくると思います。教職員のご意見をお伺いするとともに、周知をする部分が必要になると思うので、その辺りについてどう位置づけるかが今後の懸案にもなってくると思います。

【池田委員】

スリンプルプログラムが3年目になり、ハイパーQ Uについて研修会で取組んだことによって、授業の中で会話がはずむなど、桜台中学校で実施しているサクトークを活用して、挨拶し、お互いの意見を言うようにしています。光明小学校、常盤小学校にも同じように、実施してもらっています。コロナ禍では、前を向いて給食を食べていたことや、班活動が活発にできなかったことが原因なのか仲間づくりに不安な子どもがいます。スリンプルプログラムを実施することによって、学校生活の不安感がぬぐえたのではないかと評価をいただいています。今後も、それぞれの小学校から実施してもらい、中学校に引き継いでいけたらと思っています。今年度の夏季合同研

修は講師の先生をお呼びして講義を受けるという計画ですが、以前は各小中学校の生徒指導、人権、福祉、学力に分かれた会議で、情報共有や課題に対して対策を行っていました。また、3年間は体育の出前授業を中学校から小学校へ行っていました。体育以外にも外国語なども臨機応変に行っていました。中学校に入学する子どもたちの授業の様子や卒業式練習の様子などを見に行くことも必要に応じてしていました。子どもたちの頑張りを見ることもできました。このように中学校と小学校が連携しています。以上です。

【倉垣委員長】

ありがとうございます。それぞれの委員の方、来ていただいた小中一貫教育担当者も含めて、報告をいただきました。報告などをお伺いして、ご意見とかご質問とかはよろしいでしょうか。今日は昨年度より委員の方の入れ替わりもありましたので、顔合わせをして、現状の報告・把握となったので、それぞれの団体組織にお持ち帰りいただく内容はあまりないかと思います。昨年度に、この会議で特に小中一貫教育基本方針についてご意見をいただいたと聞いております。つきましては、その小中一貫教育基本方針、令和2年度策定ですが、その策定当時と、現在は岸和田市の学校適正加配も含めて、あり方や考え方も色々と変わってきている状況もございます。その小中一貫教育基本方針についての検討の場というものを、本来は、この小中一貫教育推進会議は年2回しか開催していないのですが、1回追加して、その小中一貫教育基本方針の検討の場を、学識経験者の方もお招きして、他の地域や状況、我々が知らない取組み方法であるとか、そういった部分をお聞きする場を持つことができたらと思っています。ご了承いただけるのなら、例年2回のところを1回増やして、第2回目に小中一貫教育基本方針の検討をできたらなというふうに思っております。3回開催させていただくことにご同意いただけますでしょうか。

— 意見なし —

特にご意見なければ、そのようにさせていただきます。また時期・日程は調整させていただいて、ご連絡をさせていただこうと思っております。よろしくお願いいたします。

色々と取組み内容についてのお話をいただきましたが、自分自身の経験や過去の記憶を思い起こすと、現在実施している中学校区の研修とか、相互授業を見に行くとか、中学校の教員が小学校に出前授業を行ったりするのは、自分が教員になりたての頃から実施していました。ただ、色々な流れがあり、また新型コロナウイルス感染症も大きな契機となり、ほとんどすべての中学校区でなくなって、ようやく再開されてきたのではないかと自分は感じています。新しいことを実施しているというのはそんなに多くなく、過去の状況に戻りつつあるのかなと思います。ただ小学校、中学校がしっかりと同じ方向で子どもたちを育てていかないと課題は大きくなっていると思います。自分も昨年度まで中学校に所属していましたが、課題は山積していました。小学校、中学校もそれぞれ程度はあるとはいえ、様々な課題がある中、解決し、少しでも課題を少なくしていくためにはやはり同じ方向を向いて取組まなくてははいけない。これは間違いないはずです。それをいかに良い形で、効果的に実践できるかというところ、ご意見いただきながら、話し合う場にしていきたいと思っておりますので、それぞれの組織・団体から、ご意見をまとめてご提示いただければありがたいと思っております。

【何森委員】

自分が会議録をなくしたのかもしれないという話をしましたが、もし会議録が出ていないのであれば、出してください。今のような話をするのであれば、昨年度の 1 回目と 2 回目の会議録を読まないと、議論の内容はわからないと思いますので、ぜひお願いします。それから一昨年からも出たのですが、議論の時間を確保しようという話がありました。場合によっては、開始時間を早くする、または、会議の中身についてデザインするなどがあります。議論するのであれば、しっかりと時間を取っていただきたいなと思いました。以上です。

【倉垣委員長】

検討の場のために 2 回目を持つという認識ですので、よろしくお願ひしたいと思います。その他はよろしいでしょうか。

— 意見なし —

本日の議事は以上で終了させていただきます。事務局に戻します。

【山本】

それでは最後、その他になります。

今後の予定についてですが、先ほど委員長からもお話がありましたように、学識経験者の方にもお越しいただけるように調整し、日程が決まり次第、連絡案内をさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。以上をもちまして、令和 8 年度第 1 回岸和田市小中一貫教育推進会議を終了いたします。

